

「町長と話そう、まち育て」タウンミーティング 第3回議事録要旨  
ボランティア連絡協議会

日 時：令和5年1月10日（火）10時30分～

場 所：社会福祉協議会ホール

テーマ：・「第三の居場所」建設に伴う、ボランティアセンターの今後の活用について  
・ボランティア連絡協議会の未来について

出席者：ボランティア連絡協議会 10人

町長、副町長、社会教育課、子ども未来課、環境福祉課、総合政策課（事務局）

1 開会

2 自己紹介

3 議事

（事務局）

タウンミーティングの所定時間は1時間ですので、残り時間が10分になりましたらアラームを鳴らしてお知らせします。

それでは、担当課から、テーマ1「第三の居場所建設に伴う、ボランティアセンターの今後の活用について」の説明をお願いします。

（職員 A）

ボランティアセンターの改修に伴う、子ども第三の居場所事業の実施について、ボラ連の皆さんには大変ご迷惑をかけており、申し訳なく思っています。この子ども第三の居場所事業において、ボランティアセンターの改修、増築を行っています。財源はB&G財団からの助成金を活用し、8月23日から3月10日までの予定で工事を実施しています。施設の改修概要は、手元資料の平面図2枚で説明したいと思います。1枚目ですが、既存建物の部屋割りに着色しています。まず、オレンジ色部分が社会福祉協議会の事務室、ファミリーサポート等の事業で使われている部屋、南側の黄色部分が文化連盟、老人クラブ連合会が事務室として使われている部屋ですが、南側と西側の窓を防火サッシに変更する必要がありましたので、改修しています。そして、青色の部分が、今回の子ども第三の居場所事業で活用したいと思っている部屋です。図面の下側から、もともとのステージとステージ裏部分に第三の居場所の事務室と浴室、洗面所を整備します。また、ステージの横にあった部屋を第三の居場所の子どもを預かるスペースとして活用したいと思っています。第三の居場所は小中学校の学校が終わってからの利用

になりますので、平日昼間は子どもの出入りはないと考えています。トイレはブースの一部改修を行います。今まで廊下側からトイレの入り口が見えていたので、ドアをつけて、廊下から見えないように改修予定です。また、トイレと先ほどの第三の居場所のところ廊下部分に間仕切りのドアを設置予定です。老人クラブ連合会等の事務室側と社協事務室側を区切るように設置します。もう 1 枚の方ですが、既存建物の西側にあった運動場部分に新規建物を建設中です。会議室と学習室の 2 部屋、ステージ裏にあった物置の代替スペースとして、新しい物置を設けています。青色の部分は第三の居場所の学習室として利用をしたいと考えています。ピンク色の部分は会議室で、皆さんが今まで使われていた会議室の代替スペースとして使用可能です。また、調理室は設備を一部改修し、配膳スペースを確保しています。こちらの利用も、第三の居場所で子どもに食事の提供があるとしても、夕方以降の時間になりますので、平日昼間の活動には余り影響はないと考えています。長期間に渡り、工事でご迷惑をお掛けしますが、ご理解をお願いしたいと思います。

(事務局)

ありがとうございました。それでは先ほどの説明について、質問、意見等があればお願いします。そのほか何でも結構です。

(町長)

第三の居場所の基本的な時間は 16 時、17 時スタートですので、ボラ連の皆さんが昼間にかかわることに関しては、さほど影響しないと考えています。しかし、工事で配置の変更等を行っていますので、使い勝手が悪くなるのではないかと、ここはどうなるのかというような疑問点があれば、今のうちに聞いていただき、使い勝手の部分を探っていきたいと思っています。基本的には、既存の建物の部分は、そこまで使い勝手が変わってはいないとは思いますが、入って正面の会議室で皆さんが会議等をされていたのが、渡り廊下を渡った新規建物部分の会議室で会議等をしてもらうことになります。渡り廊下を渡っていくところが、今までと違う部分になっています。その辺りも含めて、意見をお聞きしておいた方が、いろいろ検討できるかなと考えています。

(職員 A)

新規建物部分は、既存建物からの渡り廊下だけでなく、北側に新たに出入口を設けますので、直接新規建物部分の会議室に入ることができます。そういった動線を確保しています。

(ボラ連 A)

本来ならば、工事される前に説明が欲しかったと思っています。なぜ今になったのかをお聞かせ願えればと思います。

(職員 A)

設計の段階で、社会福祉協議の事務局を通じて、どういう部分を残すべきか、どこを新しく変更すべきかという打合せはしていました。しかし、今回の改修工事の内容説明が皆さん方に対しては、本日になってしまい、大変申し訳なく思っています。

(町長)

第三の居場所を実施するにあたり、どういう子どもを対象にするかを一から検討しています。近隣の自治体では実施していない事業ですので、事業内容の検討に時間を要しました。また、部屋の規模や部屋数は、問題ないだろうということで工事を進めていましたが、第三の居場所の運用を考慮した色分けの検討が遅れてしまい、皆さん方にお示しするのが本日になってしまいました。

(ボラ連 A)

私たちは町の施設を使わせてもらっている立場ですので、あまり言えませんが、いきなり文書で送ってこられました。そういうやり方では、町に対する不信感につながると思います。

(職員 A)

大変申し訳なく思っています。今後、こういった事案があった場合には、事前の連絡等を行っていきたいと思います。

(ボラ連 B)

旧園庭側に車を持っていくのは非常に狭く、危険ですので、建物の南東から入れるように、工事変更はできないかと思っています。今でも狭いですが、増築したらさらに駐車場が狭くなるのではないかと思います。

(職員 A)

今回の助成金は、あくまでも第三の居場所事業に対する施設の整備で、B&G 財団と打ち合わせをして、助成決定をいただいています。先ほど言われた、南東側からの出入口は、ピザ焼き窯と物置があり、この解体は、第三の居場所事業として認めていただくことは不可能と判断し、今回は見送っています。駐車場は新規建物部分の北側にスペースを確保しています。大型車は既存建物と北側民家との間が狭いため、入りにくいですが、軽自動車程度の車両であれば、駐車できると思います。社会福祉協議会と今後の利用について、協議していく予定です。

(ボラ連 A)

3点お伺いします。第三の居場所の事務局に人員の常駐はあるのかという点。第三の居場所の活動スペースと学習スペースを一般の方が利用できるのかという点。もう一つが台所の配膳スペースがどれぐらいあるのかという点をお伺いしたいです。

(職員 B)

第三の居場所の運営の委託業者がまだ決まっていますが、町の方針としては、常駐1名と子どもの数によって数名に勤務してもらうように考えています。第三の居場所の活動スペースは基本には第三の居場所専用で考えています。

(職員 A)

調理室の配膳スペースについてですが、配膳の長机を持って来てもらえれば、今までぐらいの配膳スペースはとれると考えています。また、入り口付近の食堂スペースは、机を置く予定はありませんので、長机等を持って来てもらえれば、配膳スペースとして使えます。今までは、下廊側にシンク台が並んでいましたが、その分がなくなりますので、今までより広く使えるのではないかと考えています。

(町長)

常駐1名の勤務時間は。

(職員 B)

常駐1名の勤務時間は、16時から21時を予定しています。

(ボラ連 A)

活動スペースの共有はできないということですが、日中は空いていて使えるのであれば、使った方が、活用できるのではないかと思います。ボラ連も含めて、ボランティアセンターで会議を行っていた人たちのスペースが1箇所になります。空いている部屋はあるにも関わらず使えないというのは、もったいないと思います。子どもたちが来るまで、邪魔にならないのであれば、使わせてほしいと思います。ボランティアセンターは税金でできている施設なので、町民が使うのは当たり前だと思っています。

(職員 B)

委託事業者が決まっておらず、どういう運営内容になるかがはっきりしません。子どもたちの道具類を全部持って帰ればいいですが、日中に子どもたちの道具類がその部屋にある可能性もあります。他の団体がその部屋を使用し、子どもの物がなくなった場合は困ることになりますので、現時点では、専用で使いたいと協議しています。

(町長)

内部ではそのように協議をしています。運営の委託事業者が決まり、セキュリティーの部分  
を協議していく中で、日中の利用については、運用の中でどうにかならないかという検討をし  
ていきたいと事務局と話をしています。

(ボラ連 C)

既に決まったことですが、なぜボランティアセンターが第三の居場所の場所になったのか、  
また、第三の居場所は誰が対象なのかをお伺いします。特定の子どもを対象にされているよう  
に感じます。ボランティアセンターを選ばれた理由が地域との連携を考えてであれば、今こう  
いう意見を聞くのではなく、住民参画として、計画段階から一緒に作り上げていき、第三の居場  
所が特定の子どもたちだけでなく、地域のあらゆる人にとっての居場所になっていくような考  
え方で、進めていかれるとありがたかったと思います。委託事業者がそういうこと理解して、  
進めていかなければ、孤立したものになり、特定の子どもだけの第三の居場所になるのではな  
いかと心配しています。ボラ連の団体は、地域に広がって活動していますので、上手く活用し  
てもらえると、私たちの活動も活性化して、お互いに良いのではないかと考えています。

(職員 B)

B&G 財団では、貧困世帯等を対象にされているようです。町としては、生活や学習等に困難  
を抱える町内の小学生ということで考えています。実際の利用については、そういう方たちに  
限らず、町内小学生の全てを対象にするという形をとりたいと思っていますが、各家庭の経済  
的な状況で料金を取るか取らないかを定めるように考えています。小学生全員を対象にしてい  
ますが、その中でより困っている家庭を優先し、安心して過ごせる居場所を作りたいと思っ  
ています。

(職員 A)

建設場所は、計画の初期段階から町議会と場所選定の協議を行っています。最終的にこの場  
所を提案した理由としては、社会福祉協議会やボランティア連絡協議会に、この第三の居場所  
事業に協力いただけるのではないかとということと、第三の居場所は町内に 1 か所ですので、  
3 校区の中間地点にあるというところで、町議会と協議し、決定しました。今後、実施事業者  
等が決まれば、ボランティアセンターを利用している団体の皆さんに、協力いただけるところ  
は協力をいただき、子育て支援のまちの拠点施設として活用していきたいと考えています。

(町長)

補足しますと、私が町長になった時点で、この第三の居場所事業の助成金は既に決定してい

ました。私としては、いい事業であれば、前町長の計画であっても引き継いでいきたいという想いがあり、また、決定した助成金を首長が変わったから止めるというのは、B&G 財団に対して非常に失礼ですので、この事業の継続を決めました。当初は B&G のプールとの連携で、メディカルコミュニティセンター敷地内の砂利敷きの職員駐車場部分で計画をしていました。しかし、町議会との協議の中で、メディカルコミュニティセンターの駐車場が不足している状況で、職員駐車場部分に建てると、さらに駐車場不足に陥るという懸念と、新規に建てるよりも既存の建物を無駄なく使っていくような方法を検討するよう話がありましたので、ボランティアセンターの改修に切りかわっていったというのが、具体的な経緯です。その過程で社会福祉協議会とは協議をしていましたが、ボラ連の皆さんに関しては、こういう形になったことは本当に申し訳なく思っています。先ほど言いましたとおり、どの部屋を使うというようなことをきっちりとこちらの方で決めてからでないと話ができないと思っていましたが、思い返してみれば、具体的な案がなくても、話はできたのではないかと反省をしています。これから、その運営にあたり、協力関係を築いていける部分があれば、ぜひ検討を重ねさせていければと思っています。この事業に相性がいい団体もありますので、連携ができれば、ここにボランティアの皆さんと第三の居場所事業が共存する意味が深まってくると思いますので、今後、協議を継続していければと思っています。

(ボラ連 C)

子育て支援の拠点にしていきたいという話がありましたが、社会福祉協議会は多くの子育て支援をしています。地元の住民に近い立場で、地域の全ての人の居場所というところに重きを置かれていますので、将来的にそういう場所にしてほしいと思います。

(職員 A)

今回の計画では、そういうところを踏まえて施設の建設を計画しています。新規建物の共有スペースである会議室は、ボラ連の皆さんと子どもたちとの交流スペースとしての活用も想定しています。そういう部分は、第三の居場所の委託事業者が決まってから、詰めていきたいと考えていますので、その際は協力をお願いできればと思います。

(町長)

今年の 4 月から子ども家庭庁ができることに伴い、令和 6 年度から市町村も体制を変えるように連絡が来ています。みやき町の子育て支援の体制も、これから変わっていきます。そういったところを見据えて、地域の方々とどのように連携とっていくのか、一貫通貫の子育て支援ができるような体制をどのように整えるかをしっかり勉強していきます。皆さん方と一緒に、子育て支援を充実させていければと思っています。

B&G 財団の助成金ですが、建築費だけでなく、スタートから 3 年間の運営費まで助成があ

ります。そのため、スタートから3年間はB&G財団が示す要件を満たすような事業を実施する必要があります。4年目からは、B&G財団の助成金が無くなりますので、3年目の段階で、みやき町オリジナルの形を模索する必要があります。新たな財源を模索しつつ、みやき町のオリジナルティーを出して、みやき町の子育て支援はこうあるべきだという方向にシフトチェンジをしていくことになると思います。地域にマッチした子育て支援の拠点でありたいと思っています。

(ボラ連A)

この共有スペースを見ていると、とても使いにくいように感じます。なぜ、この共有スペースが1番端なのかと思います。日中使われていない第三の居場所の部屋が真ん中にあります。日頃使わない部屋が真ん中であって、日頃使う部屋が1番端に行くのは、とても使いにくい。また、月に1回ぐらいではありますが、コミュニティー食堂やいろんな方が使われます。この場所で食事をしたり、物を運ぶのにすごく距離がある。この場所を考え直すことはできないですか。第三の居場所のお風呂を作られているので、仕方ないとは思いましたが、日頃使わない場所が真ん中にあるというのは、地域住民が使うのに1番不便なことではないか思います。

(職員B)

第三の居場所の部屋の活用方法は、先ほども言いましたように、委託事業者が決まったところで考えていきたいと思っています。

(町長)

タウンミーティングの前に、第三の居場所の活動スペースが昼間使えるかどうかについては、話題になるだろうと担当職員等と話をしていました。懸念材料としては、子どもたち個別の道具のセキリティーだと思います。今の段階では、その辺りを運用面でどのようにクリアするかを考えた上で、前向きに検討するというところで、ご理解いただければと思っています。持ち物を置いて帰るスペースのセキリティーを確保できるのであれば、昼間の活用は行ってもいいという話になってくると思います。

(ボラ連A)

ここは皆さんの共有スペースなのに、個人の持ち物を置いているということ自体がまず考えがおかしいと思います。個人の持ち物は、持ってきたら、持って帰るのが普通ではないかと思っています。子ども個人の道具を置いて帰るという考え自体が間違っていると思います。

(町長)

そこも含めて、委託事業者と検討させてください。言われていることは十分理解しました。

一番端の会議室はあった方がいいですか。

(ボラ連 D)

新規建物の方に第三の居場所のスペースを固めて、既存建物はそのままでできなかったのかと思います。もう一つは、不登校の子どもたちを受け入れるような町の体制があるのかどうかを伺いたいと思います。

(職員 A)

まず、部屋割りの件ですが、既存建物の文化連盟、老人クラブ連合会の事務室と新規建物の学習室を入れ替えるように両団体と協議を行いました。荷物移動させるのが大変であるため今のままで良いということでしたので、学習室は新規建物の方に配置せざるを得ませんでした。

次に、不登校対策の件ですが、学校の時間帯は、学校教育課がこすもす館内で、フリースクールで子どもを受入れています。こちらは、学校の時間帯の受入れですので、夕方以降に第三の居場所で受入れが必要であれば、子ども未来課との連携を含めて、協議されると思います。

(ボラ連 E)

子ども第三の居場所の助成金は、どこのスペースを作るためのものかが分かりません。新規建物を作るために、第三の居場所を作ったと思いますが、スペースはまとめた方が1番いいのではないかと思います。そうでなければ、この会議室が第三の居場所の会議室か、我々の会議室かが分かりません。スペースはまとめた方が良かったのではないかと思います。

(職員 A)

言われていることは十分に理解していますが、子どもたちが夜の時間に渡り廊下を通ることは、防犯的に良くありませんので、既存建物内に預かるスペースを設ける必要性がありました。また、事業所建設の助成金は備品購入費などを含めたところで上限額があります。その中で上下水道の観点から考えると、東側に水回りを整備する必要性がありました。本来ならば文化連盟、老人クラブ連合会の事務所を新規建物に移動させて、ファミリーサポート事業との連携を含めて、既存建物内に学習室を設置したいと考えていましたが、両団体と協議をした結果、今のままがいいという意見でしたので、学習室が新規建物内に設置することになりました。

(ボラ連 A)

根回しと説明が不十分であったため、今こういう意見が出てきていると思います。今後は、十分な説明と根回しをしていただいて、町政を執行してもらえたらと思っています。

ボランティアセンターとしての機能は維持しながら、第三の居場所を運営されると思いますが、ボランティア連絡協議会と第三の居場所との関わりを、どういうふうに考えているのかお



伺います。また、B&G 財団の第三の居場所事業自体がよく分かっていませんので、説明をお願いします。

(職員 B)

B&G 財団の子ども第三の居場所事業は、子どもたちが孤立しやすい放課後に安心して過ごせるような環境で、生きる力を育むということを目的にしています。食事の提供や生活習慣の習得、体験活動などを行い、貧困世帯の家庭の子どもが安心して過ごせるような場所を作るという主旨です。体験活動の部分でボランティアの皆さんと連携できればと考えています。3年間は B&G 財団から助成金をいただきますので、その期間は B&G 財団の考えを踏まえつつ、みやき町らしい運営をできればと考えています。

(ボラ連 A)

ひとり親家庭の子どもの学習支援のボランティアをしている団体が、三根の持丸古民家や中原の青少年ホームで活動されていますが、そのような団体も第三の居場所に入ってくるのでしょうか。

(職員 B)

その団体と話をしてはいますが、最終的には委託事業者が決まった上での話合いになると思っています。

(ボラ連 F)

子どもの送迎は委託事業者が担われるのでしょうか。

(職員 B)

三根や中原は距離がありますので、業者選定においては、そういう送迎まで含んだところで選定したいと思っています。

(ボラ連 F)

保護者も送迎できない場合もあると思うので助かると思います。

(ボラ連 G)

放課後児童クラブと第三の居場所の根本的な違いを教えてください。

(職員 B)

放課後児童クラブは、基本的に 18 時、遅くても 19 時まで子どもを預かります。基本的には

宿題をさせて、遊ばせるということですが、第三の居場所は子どもを預かって、学習支援や生活支援、体験活動などを通じて、子どもたちが生活習慣や生きる力を育むことを目的としています。また、夜の21時くらいまで預かれるようにしたいと考えています。

(町長)

ひとり親の方で、帰りも遅いというような場合に、子どもに生活習慣として、毎日お風呂に入ることや決まった時間に夕食を食べるといふようなところまで行き届かず、生活で一生懸命になっている家庭を、この事業で手助けをしていくことがメインになります。放課後児童クラブとはそこが異なります。

(事務局)

次のテーマ2「ボランティア連絡協議会の未来について」に移ります。

(町長)

私としては、みやき町でボランティアがますます盛んになり、地域が盛り上がっていくために、まだまだ不足しているところをお聞きできたら、私たちもそれに向けて努力ができると思っています。要するに行政にこう動いてもらおうと、自分たちの動きはこう変わるのにといふようなことがあれば、ぜひお聞きしたいと思っています。

(ボラ連A)

私は鳥栖のボランティア連絡協議会にも参加しています。全国的には、ボランティア連絡協議会は衰退の傾向にあり、高齢化に伴いメンバーが減少しています。みやき町は近隣自治体と比較しても、ボランティア活動は盛んで、団体も多いです。そういう意味では、みやき町のボランティア連絡協議会の団体の皆さんは、非常に頑張っていますので、感謝したいと思っています。今後も全面的な支援をお願いしたいと思います。

(町長)

団体の数など、近隣自治体に比べてボランティア活動が盛んですが、さらに盛り上げていくために会員数を増やしていくことが課題だと思います。そのためにも、行政や社会福祉協議会とタッグ組んでいることをアピールしていくことで会員数が増えやすくなるのではないかと考えています。

今、第三次みやき町総合計画を作っている最中です。そこで1番頭に掲げているのが住民協働です。その部分をこれから町の柱にするために、第三次みやき町総合計画の柱にしています。期間は11年で、中身は3年、4年、4年で見直ししていきますが、まちづくりの中心は住民協働です。皆さん方と話を重ねながら、進めていきたいと思っています。それぞれのボラン

ティア団体が横のつながりを持っていくと、もっと広がりが出てくると思いますので、そういう動きを少しずつ仕掛けていければと思います。私たち行政ができるのは、住民が動きやすい環境づくりだと思っています。私たちから依頼することもあります。皆さん方がボランティアをしやすい環境を作ることが、行政ができる部分だと思いますので、こういう話合いで、意見交換をしていきたいと思っています。そうすることで、住民協働という部分が、より輝いてくると思っています。

(事務局)

以上で、タウンミーティングを終了します。